



今週の T2 経済レポート

2021年7月16日号

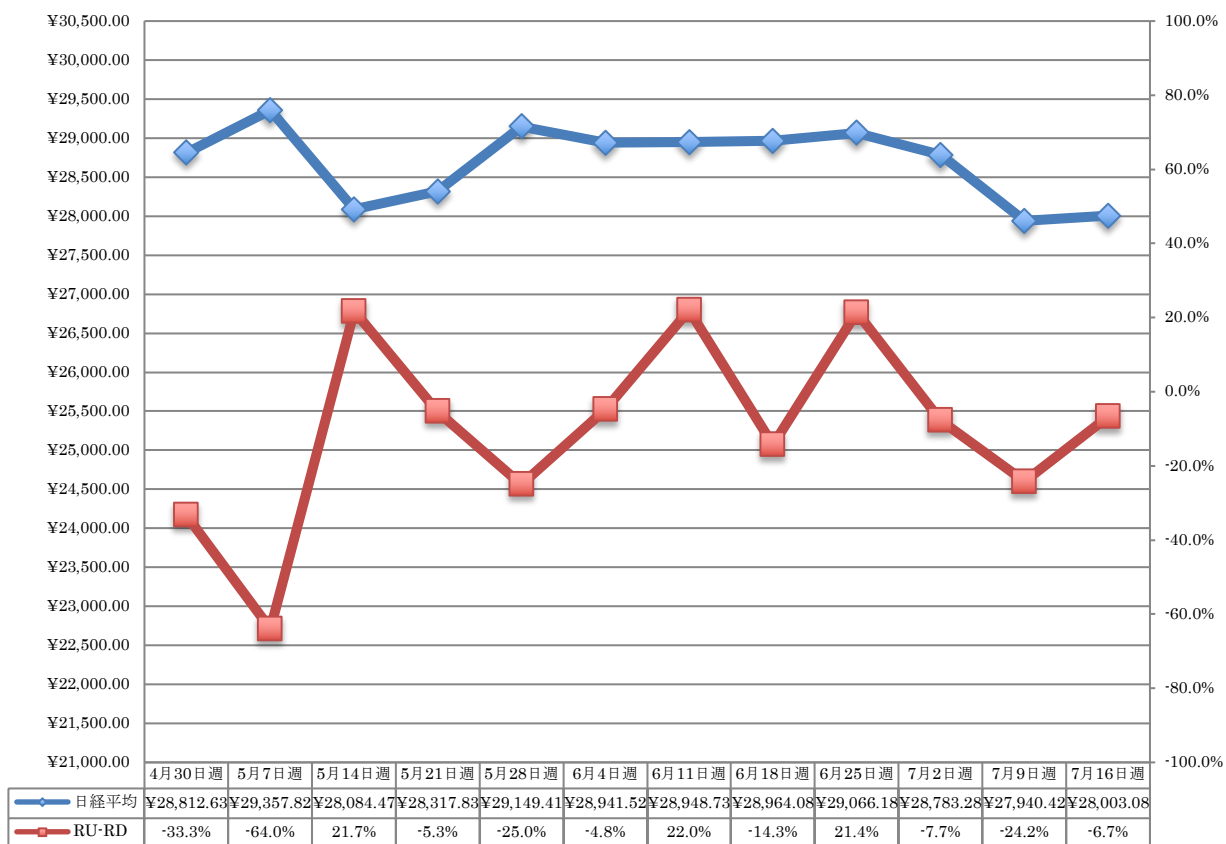
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は軟調相場が継続する可能性の高い週となります。今週(7/12~7/16)の相場を占う『RU-RD 指標』の7月2日週が-6.7%と3週連続のマイナス圏で軟調相場が継続する可能性があります。さらに、来週(7/19~7/23)の相場を占う7月9日週が-14.8%と4週連続のマイナス圏で軟調相場がさらに継続する可能性があります。先週、『3週連続のマイナス圏は5月3日週~5月17日週以来で、日経平均が5月10日高値29685円→5月13日に安値27385円まで3日間で2000円超の急落は記憶に新しいですが、その前は昨年10月12日週~10月26日週で、日経平均は昨年10月9日高値23725円→10月30日安値22948円まで-3%超の下落となっています。』と指摘しましたが、4週連続マイナス圏は2020年2月17日週~3月9日週以来、約1年5ヶ月振りの希な現象。昨年のコロナ・ショック直前に表れた「4週連続マイナス圏」で記憶に新しいですが、その前は19年4月22日週~5月13日週。日本が改元に伴う10連休に入っていた19年5月5日、トランプ米大統領が突如、中国の輸入製品2000億ドル(約22兆円)分に対する関税を10%から25%に引き上げると発表し、米中の貿易摩擦の激化懸念から日経平均は19年4月末22258円→5月安値20581円まで-7%超の下落となっています。同指標の1年5ヶ月振りの「4週連続のマイナス圏」は何を示唆するのか。これまでの株価操縦の弊害がどのようなかたちで表面化するのかが注目されます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が21年5月7日週+7.1%→5月14日週-4.3%→5月21日週-7.1%→5月28日週+2.9%→6月4日週+4.9%→6月11日週+5.7%→6月18日週+7.1%→6月25日週-7.1%→7月2日週-4.3%→7月9日週-11.4%と、株価操縦により5月21日週-7.1%、6月25日週-7.1%と同水準に留まり急落を免れていましたが、先週『この水準を下抜けるようだと大きな下落に発展する可能性があります。それは昨年の「コロナショック」でも証明済みですが、今回の「3週連続のマイナス圏」のこの時期にどこまで下がるかにも要注目です。』と指摘しましたが、同指数は下抜けると同時に、「4週連続のマイナス圏」となってさらに不気味な未来を示唆したかたちです。

今週は、経済指標では、国内は、12日に6月工作機械受注、一方海外で、12日に米10年国債入札、13日に中国6月貿易収支、米6月消費者物価指数、米30年国債入札、14日に米6月生産者物価指数、地区連銀経済報告(ベージュブック)、15日に中国4-6月期GDP、中国6月鉱工業生産、中国6月小売売上高、米7月ニューヨーク連銀製造業景気指数、米7月フィラデルフィア連銀景気指数、米6月鉱工業生産、16日に米6月小売売上高、などの発表が予定されています。13日発表の米6月消費者物価コア指数(CPI)は前年比+4.0%と、5月実績の+3.80%を上回る見込みですが、市場予想を上回った場合、米金融当局者の「インフレ高進は一時的な現象」ではなかったとの見方が広がる可能性があります。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、12日に東京都で4回目の緊急事態宣言期間入り、15日に日銀政策決定会合(7/16まで)、16日に黒田日銀総裁会見、海外は、14日に米・パウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長が半期に1度の議会証言(下院金融委員会)、などが予定されています。日本政府は新型コロナウイルス対策で、東京都を対象に7月12日~8月22日までの期間、緊急事態宣言を発出、埼玉、千葉、神奈川、大阪の4府県を対象に8月22日までまん延防止等重点措置が延長されることから、日銀政策決定会合では現行の大規模な金融緩和策を長期間維持することが確実視されています。」とコメントしました。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



6月25日週	7月2日週	7月9日週	7月16日週
¥29,066.18	¥28,783.28	¥27,940.42	¥28,003.08
21.4%	-7.7%	-24.2%	-6.7%

先週の日経平均は、高値 28852 円 (7 月 13 日)・安値 27847 円 (7 月 16 日)と推移、3 週連続で前半高・後半安の弱いかたち。先週は、5 月機械受注統計が市場予想を大幅に上回ったことに加え、米主要株価 3 指数が過去最高値を更新したことを追い風に上値目標値を達成しましたが、米国 6 月消費者物価指数 (CPI) が予想を大幅に上回ったことでインフレ高進への警戒感が高まったほか、東京都で新型コロナウイルスの新規感染者数が 1000 人を超えるなど東京五輪開催直前の感染第 5 波への警戒感が重しとなり下値目標値目前まで反落、週間ベースで+63 円高と週前半に大きく反発した分を消滅したかたちで終了しています (先週予告していた上値メド 28764 円～29339 円 (+2%かい離) // 下値メド 27820 円～27263 円 (-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、7 月 15 日までに 29000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。29000 円大台替えで仕切り直し、逆に、27500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、7 月 9 日に 28000 円大台割れで下落スタートとなりました。27000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、29000 円大台替えで仕切り直しが入り

ます。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、7月に28000円大台割れで下落スタートとなりました。27000円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、29000円大台替えで仕切り直しが入ります。これで短期→、中期↓、長期↓となり、中長期弱含みに短期も方向感がなくなり、上昇しにくいかたちに変化しました。

日経平均を左右するNYダウは、高値35090ドル(7月16日)・安値34647ドル(7月16日)と推移、週末16日に高値・安値を付ける珍しい週でしたが、時間足では4週間振りの前半高・後半安の弱いかたち。先週は、7月13日発表の米国6月消費者物価コア指数が前年比+4.5%と市場予想を上回る伸びとなる一方、連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長が下院金融サービス委員会での証言で、「インフレの上昇は一時的で、経済が緩和縮小の条件を満たすのは程遠い」と見方を伝えたことを受けて長期金利は低下、また米国の6月小売売上高は前月比プラスに改善する一方、その後発表された7月ミンガン大学消費者信頼感指数速報値が前月から低下して米国経済の力強い回復への期待が低下し、2週連続で上値・下値両目標値を達成しない中途半端な乱高下の週でしたが、週末16日高値から500ドル超下落して終了したため週間ベースでは-184ドル安と4週間振りに反落して終了しています(先週予告していた上値メド35293ドル~35998ドル(+2%かい離)//下値メド34359ドル~33671ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、6月25日に34500ドル大台替えで仕切り直しが入り、7月12日に35000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに17日間、従って、29日までに35500ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、34500ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、7月12日に35000ドル大台替えで仕切り直しが入りました。36000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、34000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、7月に35000ドル大台替えで仕切り直しが入りました。36000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、34000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期↑、長期↑、となり、短中長期全てが強含みとなり、上昇しやすいかたちに変化しましたが、先週末の急落で短期が↓の可能性が高まっており注意が必要です。

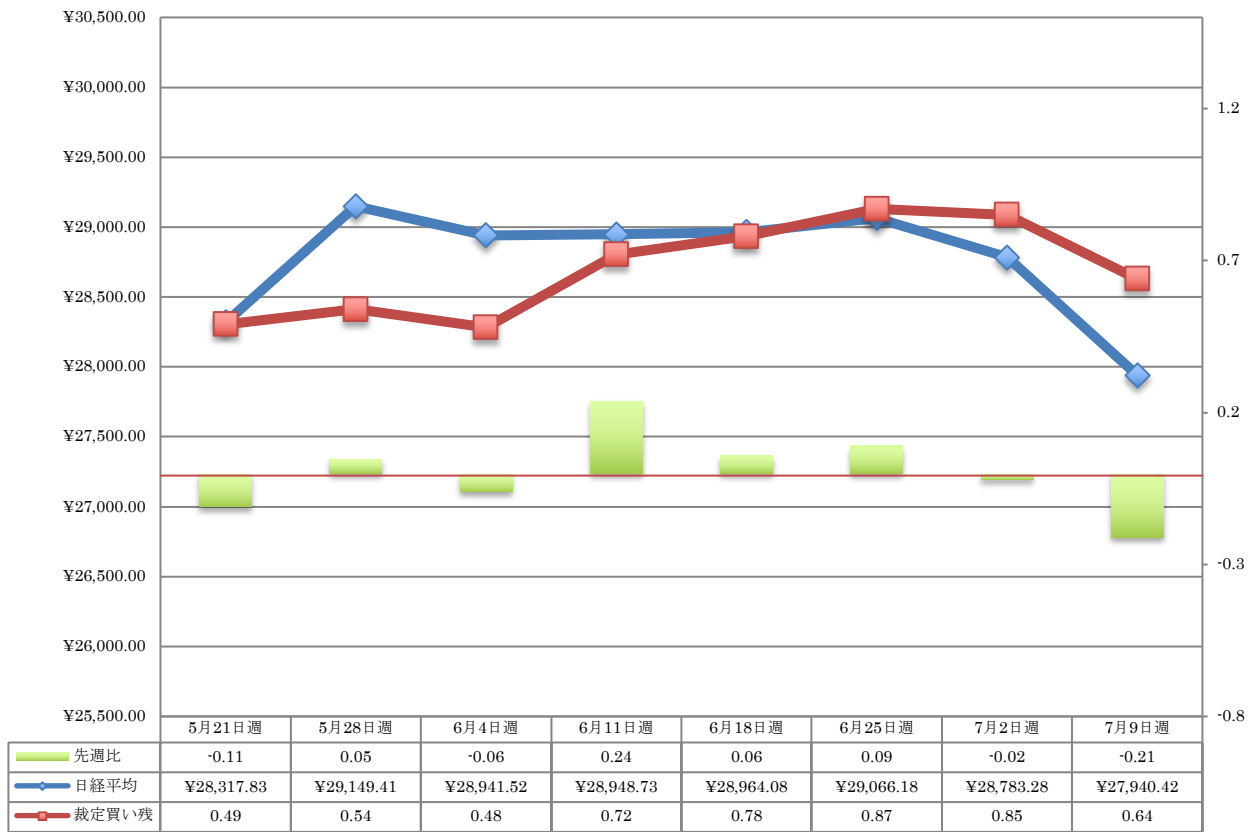
一方、為替は、ドル・円が110.69円~109.70円(先週予告していた上値メド111.33円~112.44円(+1%かい離)//下値メド110.00円~108.90円(-1%かい離))と推移、下値目標値を達成し、2週連続の円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1879~1.1770(先週予告していた上値メド1.1886~1.2004(+1%かい離)//下値メド1.1753~1.1635(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週が2週連続で継続していますが、実質3週連続のドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、131.08円~129.57円(先週予告していた上値メド131.94円~133.25円(+1%かい離)//下値メド129.99円~128.69円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、2週連続の円高・ユーロ安。前の週の円>ユーロ>ドルが2週連続で継続しています。欧州中央銀行(ECB)デギンドス副総裁のインフレ上昇は一時的との見解を示したことやユーロ圏5月鉱工業生産の落ち込む一方、

パウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言で金融緩和策を当面維持することが示唆され、ユーロ・米ドルは方向感のないレンジ相場となりましたが、世界的な変異ウイルス感染拡大への懸念が強まりイタリア中央銀行のビスコ総裁が「金融引き締めはずっと先になる」と発言したことからユーロ売り・円買いが優勢となったかたちです。

<裁定買い残・裁定売り残>

2週連続で減少、5月末以来の6000億円台に縮小しています。一時、6週連続で1500億円～約7000億円の巨額の増減を毎週、繰り返す異常な現象が続き「ブロック取引」が行われ、ヘッジファンドなどの精算に伴う処理が行われていた可能性があります。再び、2000億円台の増減になり始めており、このような巨額な増減が続くようだと注意が必要です。一方、「裁定売り残」は、前の週比+114億円の2564億円と僅かながら2週連続で増加。18年10月1日週以来となる2000億円台はほとんど裁定売りを利用していない水準であり、今後、大きく売り崩すことが可能な水準まで縮小したことを意味します。「裁定買い残」の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000円億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

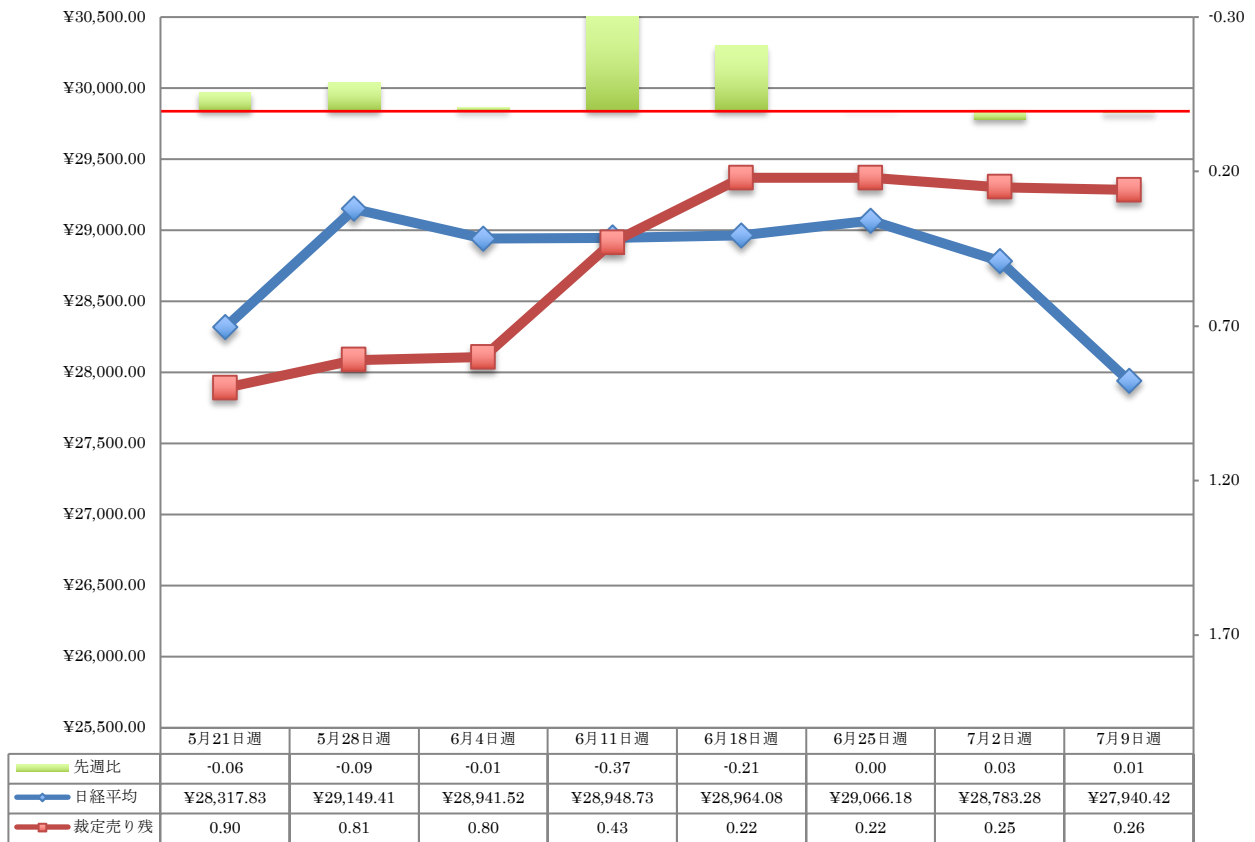
裁定買い残と先週比



6月18日週	6月25日週	7月2日週	7月9日週
¥28,964.08	¥29,066.18	¥28,783.28	¥27,940.42
0.78	0.87	0.85	0.64
0.06	0.09	-0.02	-0.21

単位:兆円

裁定売り残と先週比



6月18日週	6月25日週	7月2日週	7月9日週
¥28,964.08	¥29,066.18	¥28,783.28	¥27,940.42
0.22	0.22	0.25	0.26
-0.21	0.00	0.03	0.01

単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は軟調相場がさらに継続する可能性の高い週となります。今週(7/19~7/23)の相場を占う『RU-RD 指標』の7月9日週が-14.8%と4週連続のマイナス圏で軟調相場がさらに継続する可能性があります。先週末16日夜間取引で日経先物が200円超下落して終了していることから週初は安く始まりそうです。先週、『4週連続マイナス圏は2020年2月17日週~3月9日週以来、約1年5ヶ月振りの希な現象。昨年のコロナ・ショック直前に表れた「4週連続マイナス圏」で記憶に新しいですが、その前は19年4月22日週~5月13日週。日本が改元に伴う10連休に入っていた19年5月5日、トランプ米大統領が突如、中国の輸入製品2000億ドル(約22兆円)分に対する関税を10%から25%に引き上げると発表し、米中貿易摩擦の激化懸念から日経平均は19年4月末22258円→5月安値20581円まで-7%超の下落となっています。同指標の1年5ヶ月振りの「4週連続のマイナス圏」は何を示唆するのか。これまでの株価操縦の弊害がどのようなかたちで表面化するかが注目されます。』と指摘しましたが、『4週連続マイナス圏』が今週の相場に表れるかもしれません。ただ、来週(7/26~7/30)の相場を占う7月16日週が+41.7%と5週間振りにプラス圏に急上昇したため急反発が予想されます。連続マイナス圏後にこのような上限ゾーンまで急上昇するとプラス圏が一過性で終わる可能性があり、再度、マイナス圏が続くようだとさらに大きく下落する可能性があるため注意が必要です。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が21年6月4日週+4.9%→6月11日週+5.7%→6月18日週+7.1%→6月25日週-7.1%→7月2日週-4.3%→7月9日週-11.4%→7月16日週-2.9%と、4週連続マイナス圏となっています。先週はマイナス幅が縮小していますが、あくまで-40%以下の下限ゾーンまで下落する過程の小休止であり、再度、同指標が下落し始めたときに今回の「4週連続のマイナス圏」が影響してどこまで下がるかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、19日に月例経済報告(7月)、6月首都圏マンション発売、20日に6月全国消費者物価指数、21日に日銀金融政策決定会合議事要旨(6月17日~開催分)、6月貿易収支、一方海外で、19日に7月NAHB住宅市場指数、20日に米6月住宅着工件数、22日に米6月中古住宅販売、新規失業保険申請件数、23日に米・欧・独・英・製造業/サービス業PMI(7月)、などが予定されています。20日発表の米6月住宅着工件数は参考となる5月実績は157.2万件ですが、6月は5月実績を上回る可能性があります。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、22日株式市場は祝日のため休場(海の日、オリンピック開会式の前日)、23日株式市場は祝日のため休場(スポーツの日、オリンピック開会式)、海外は、22日にECB定例理事会(ラガルド総裁会見)、などが予定されています。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



7月9日週	7月16日週	7月23日週	7月30日週
¥27,940.42	¥28,003.08		
-24.20%	-6.70%	-14.80%	41.70%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 28420 円～28988 円 (+2%かい離)

下値メド 27508 円～26957 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 35229 ドル～35933 ドル (+2%かい離)

下値メド 34529 ドル～33838 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 110.58 円～111.68 円 (+1%かい離)

下値メド 109.14 円～108.04 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.1869～1.1987 (+1%かい離)

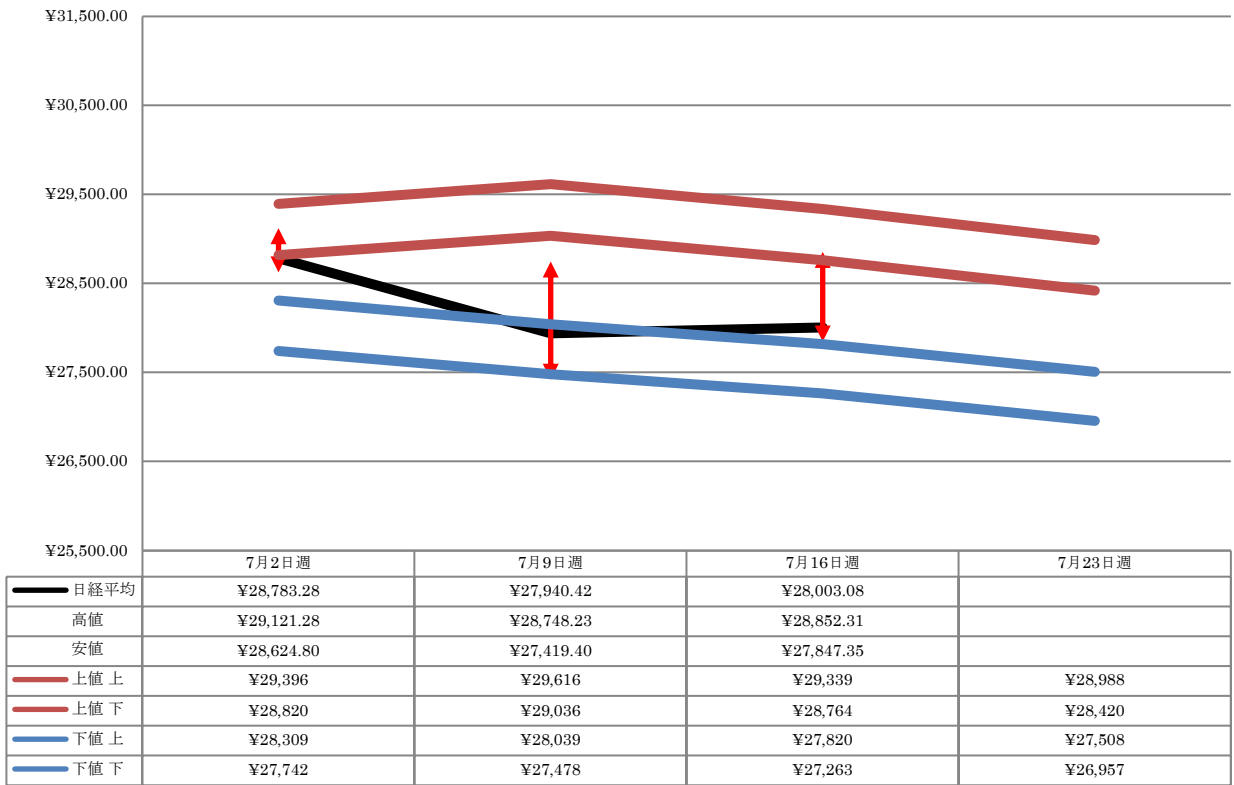
下値メド 1.1743～1.1625 (-1%かい離)

<ユーロ円>

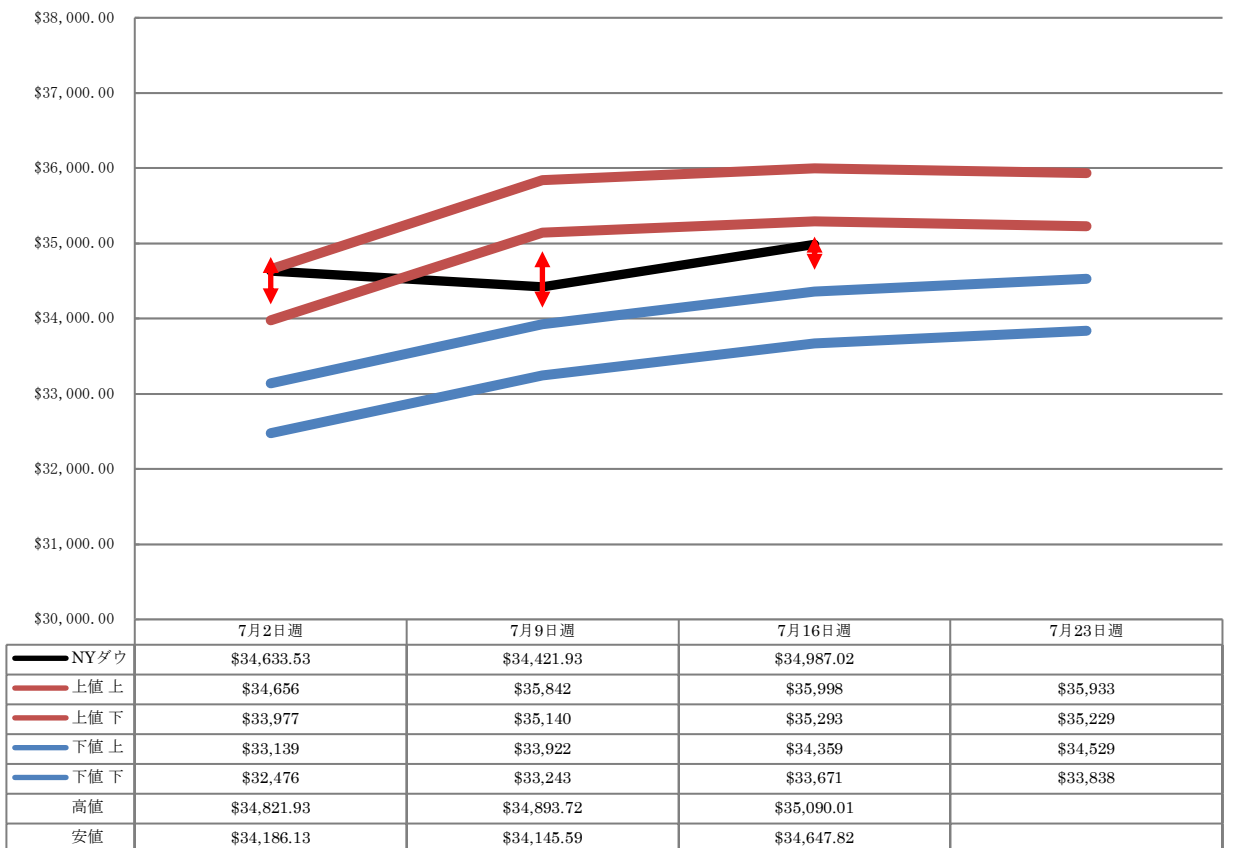
上値メド 130.63 円～131935 円 (+1%かい離)

下値メド 128.92 円～127.63 円 (-1%かい離)

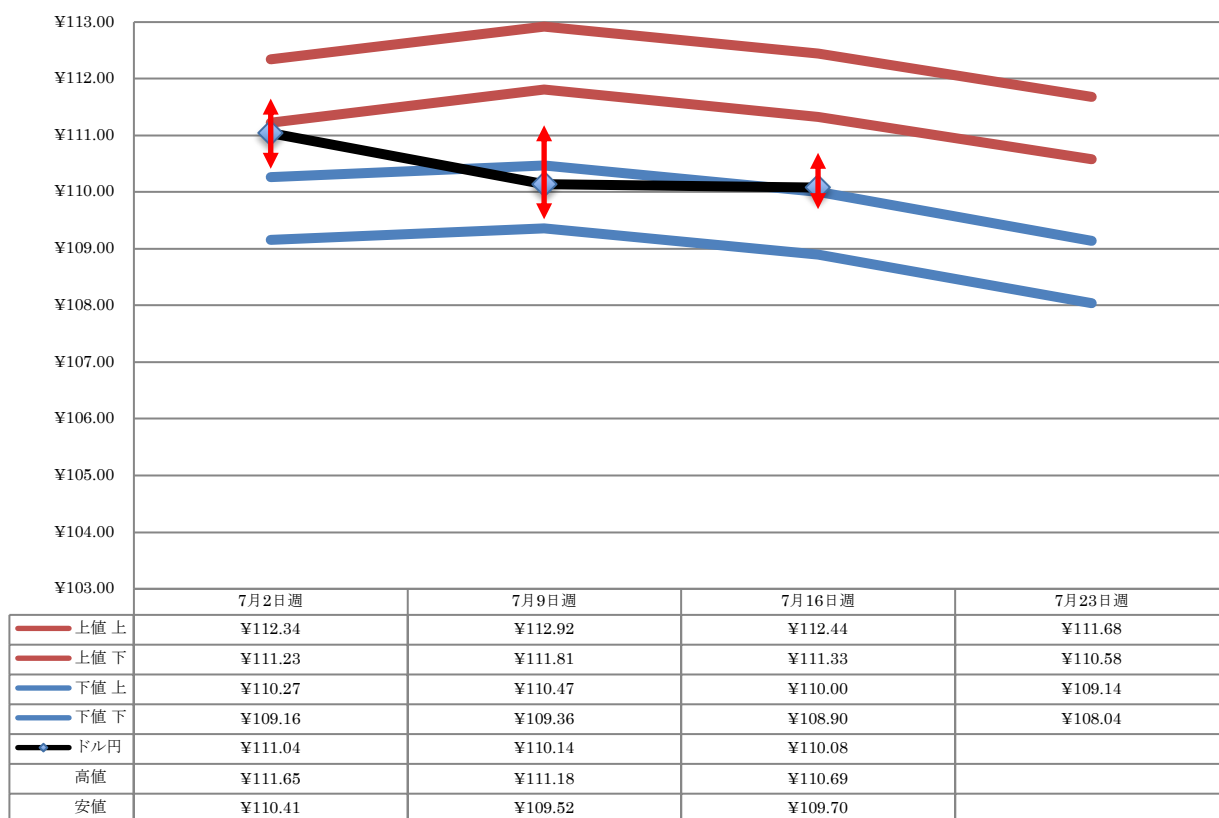
日経平均



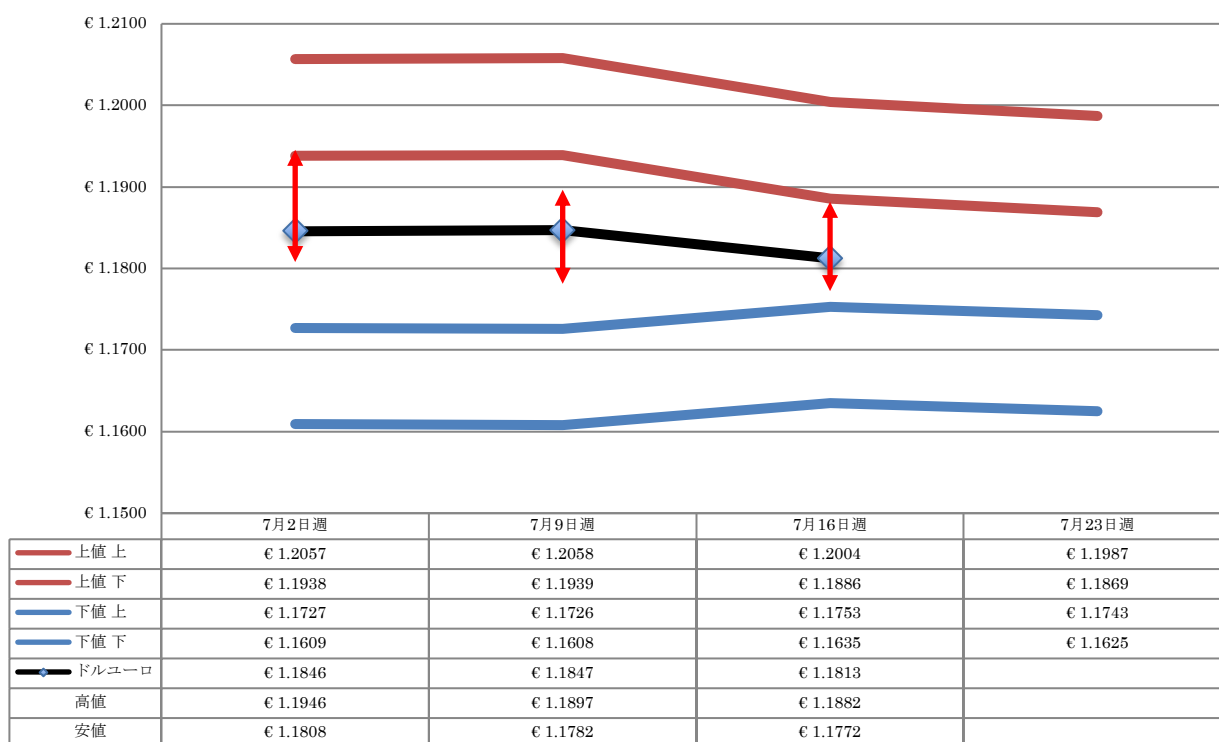
NYダウ



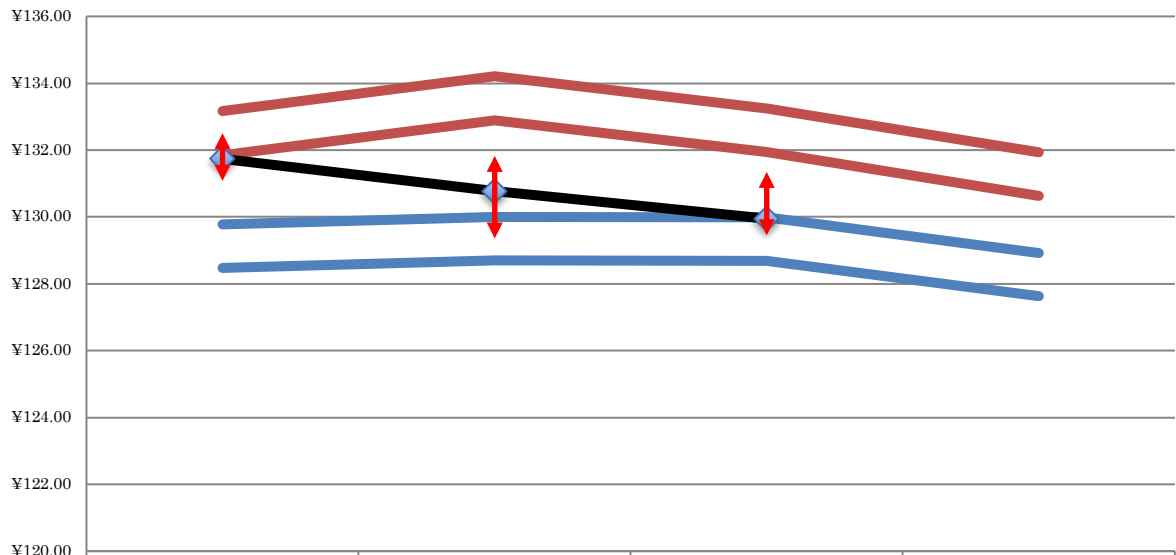
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

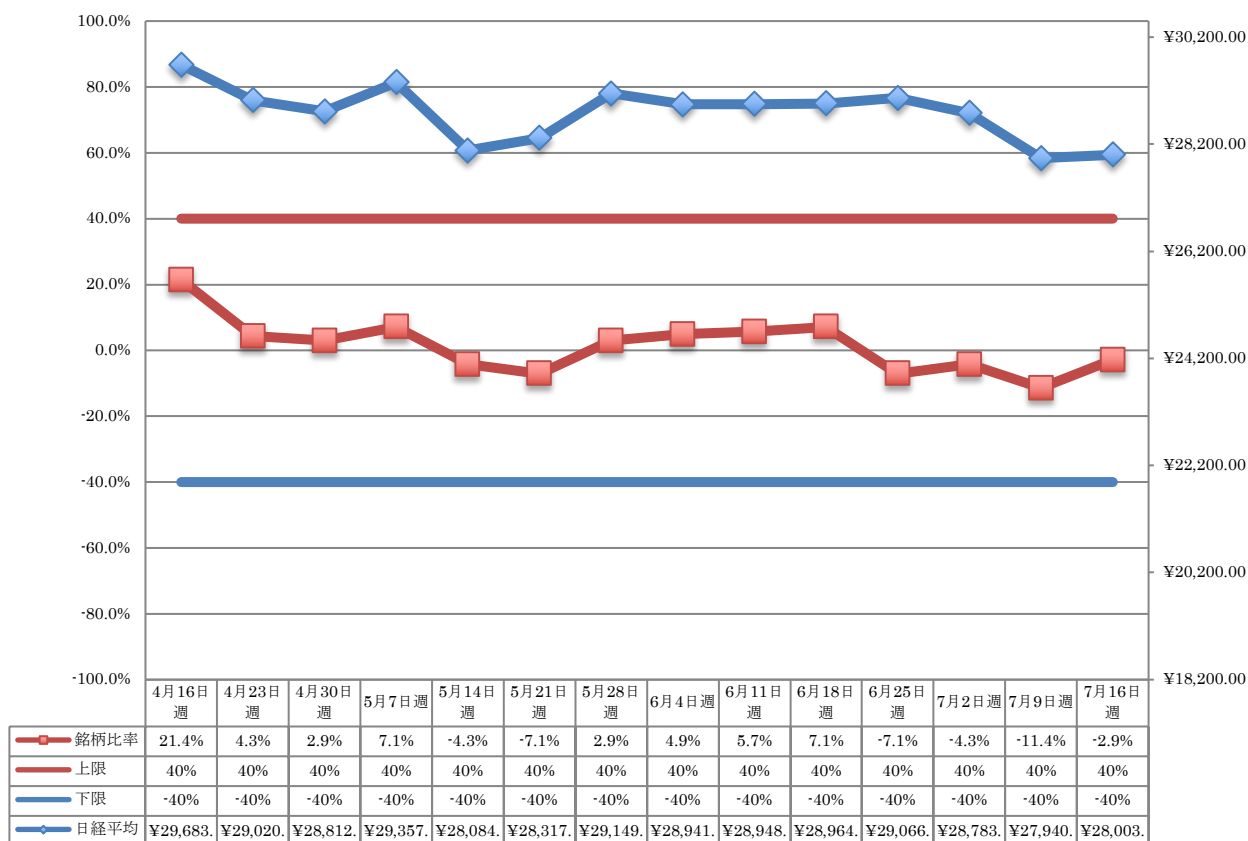


	7月2日週	7月9日週	7月16日週	7月23日週
上値上	¥133.16	¥134.21	¥133.25	¥131.94
上値下	¥131.85	¥132.89	¥131.94	¥130.63
下値上	¥129.77	¥130.00	¥129.99	¥128.92
下値下	¥128.47	¥128.70	¥128.69	¥127.63
ユーロ円	¥131.74	¥130.77	¥129.95	
高値	¥132.51	¥131.82	¥131.35	
安値	¥131.08	¥129.35	¥129.46	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、21年6月4日週+4.9%→6月11日週+5.7%→6月18日週+7.1%→6月25日週-7.1%→7月2日週-4.3%→7月9日週-11.4%→7月16日週-2.9%と、4週連続マイナス圏となっています。先週はマイナス幅が縮小していますが、あくまで-40%以下の下限ゾーンまで下落する過程の小休止であり、再度、同指標が下落し始めたときに今回の「4週連続のマイナス圏」が影響してどこまで下がるかが注目されます。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。